

新津の花のあゆみ

年代	できごと
江戸時代 (天明)	1760年 三郎兵衛、という人が花を栽培して行商したのが新津の花の歴史の始まりといわれている。
天明	天保の大飢饉で一粒の米もとれず、仏花を栽培し、他領で米麦と交換する者も多かった。これが小合の花の発展の契機となる。
明治	27年 紫金牛(コージ)が大流行。鉢数千円と投機色が強くなったため、翌28年、県令によりその売買が禁止された。 コージの禁止により盆栽が始まり、「針金作り」「石付き」の技術が案出される。
明治	35年 ボタンをシャクヤクに接ぐことに成功 40年 アザレア、西洋シャクヤク、西洋シャクナゲが兵庫県より移入された。
大正	3年 ボケ、サツキ、ゼラニウムが大流行し、このころから温室が作られ始めた。 7年 小田喜平太氏、千葉高等園芸学校よりチューリップ新品種を導入し、栽培。これが新潟県のチューリップ発祥となる。
大正	10年 ボタン苗が初めて海を渡り、アメリカへ輸出される。
昭和	5年 ボタンをロンドン公園に寄贈し、人気を博した。 16年 太平洋戦争勃発、米国の資本凍結令により花の輸出が停止 30年代 チューリップ球根、ボタン最盛 48年 さつき人気急上昇し250~300万本生産。花木苗生産全国トップ、出荷量1000万本を超える。
昭和	58年 信越郵政局との連携による「花いっぱい運動」通信販売を実施 59年 第1回にいつフラワーフェスティバルを開催

中心となる花き類の生産は、そのほとんどが小合地区に集中し、新聞 荻川地区でも生産されています。その面積は約五十八軒でサツ



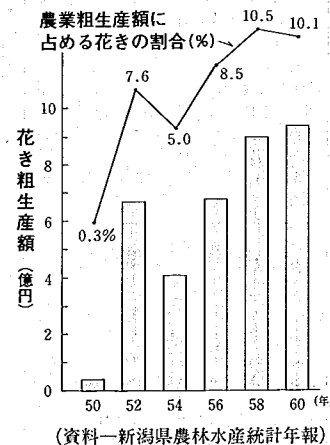
また、花き生産の一層の生産条件の整備で全国屈指の産地に

キ・アザレア・シャクナゲなどのほかボケ、松柏類の生産も盛んです。二百数十戸の農家がその生産にあたっています。



今、ハウス内ではボケの出荷が最盛。冷蔵設備を有する花き出荷貯蔵施設の建設、さらには交換分合によるほ場の団地化をすすめるなど生産条件の総合的な整備を図り、生産性と品質の向上に努めた結果、名実ともに全国でも屈指の花き生産地となっています。

グラフでみる花き生産の変遷



10年で約47倍に
これを数字で追ってみると、市内の花き粗生産額(昭和六十一年)は昭和五十一年に比べ約四十七倍にも膨れ上がっています。また、農業粗生産額全体に占める割合をみても、五十年には〇・三%に過ぎなかった花きの生産が、六十年には約一〇%と急上昇しています。都市化が進み、消費ニーズが絶えず変化するなかで品種に隆盛はありますが、水稲を除けば最も市場性の高い作物の一つとして今後の発展が大いに期待されています。

お買物、ご用命は市内で

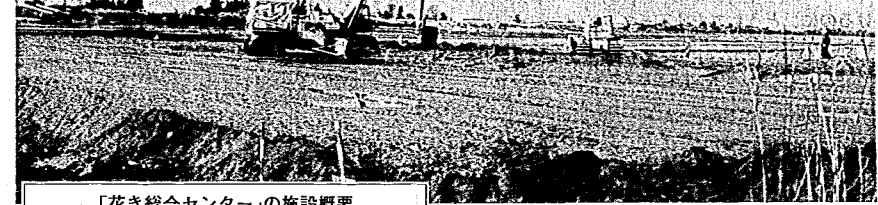
銘菓 雪かこい
和洋菓子 田家屋
新津市本町四
TEL (025) 431100

銘菓 栗太郎
和洋菓子 田家屋
新津市本町四
TEL (025) 431100

駿河屋
新津市本町三
TEL (025) 431100

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12 TEL (24) 5122

花とみどりの里の拠点に



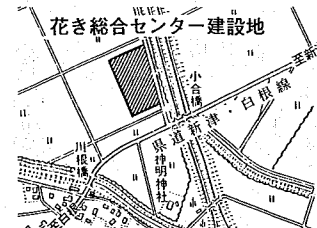
「花き総合センター」の施設概要

施設区分	構造など
屋内集出荷施設 (集出荷場、事務室、情報管理室など)	鉄骨造り一棟910㎡ (一部2階建て)
屋外集出荷施設 (常設展示即売場)	パイプハウスなど 4240㎡

△急ピッチで進められている同センターの造成工事

近年、市場での需要が増加している「花き」の生産拡大とその定着を図るため、小合地区(川根地内)に「花き総合センター」が建設されることになりました。工事はすでに着手され、今春のオープンをめざして、寒風の中で着々と進められています。

同センターには、花きを全国市場に出荷するための集出荷施設のほか、広い駐車場を備えた常設展示即売場が併設される予定であり、「花とみどりの里」にいつの新しい新名所としても市内内外の皆さんの注目を浴びそうです。



敷地は約一万九千八百平方メートルの広さ

「花き総合センター」は、川根地内の県道新津・白根線わきに建てられます。敷地面積は約一万九千八百平方メートル、鉄骨造り一部二階建ての屋内集出荷施設と常設展示即売場を利用される

情報管理システムを導入

このセンターの集出荷施設の大きな特徴の一つに、コンピュータを駆使した情報管理システムの導入があげられます。花きは、今まで卸売業者などによる庭先買いが多かったのですが、近年消費者の花きに対する関心が高まり、市場出荷が多くなっています。全国ネットに販路を拡げるためには、消費者がどんな花を求めているかをいち早く知り、品質の高いものを需要に応じて提供するという経営方式への転換が不可欠



多くの人でにぎわう「さつきまつり」。今年からは花き総合センターを会場にさらに充実されます。

新名所として期待

同センターには、広い駐車場を備えた花きの常設展示即売場も併設される予定であり、シーズンを通していつでも「花き」を楽しめるようになりそうです。また、毎年市をあげて実施される「花とみどりの祭典」「フラワーフェスティバル」やさつきまつりも、ここを会場にして行われます。

「花とみどりの里」にいつの新しい新名所として期待されるこの施設は、消費者と生産者のコミュニケーションの場」として、市内内外の多くの皆さんから利用していただきたいものです。

お買物、ご用命は市内で

花キュービッド 国内どこにでもお届けします
祝・葬祭用盛籠・花束
いけばな材料一般
小林生花店
新町1丁目 TEL 22-1080 22-6707

電気のことなら、お気軽に！
お宅の家電品はすべて調子よくお役に立っておりますでしょうか？ちょっと点検してみませんか。もし、お困りのもの、ご不満のものがございましたら何なりとご相談下さい。
(どのメーカーでも結構です)
※午後8時まで営業
YAESEN 八重電商事
新津店 新津市本町2丁目13 TEL (0250) 24-3131